

太田市美術館・図書館

『太田市美術館・図書館』は、建築家・平田晃久氏の設計による複合施設で、2022年度日本建築学会作品賞を受賞した。平田氏は、建築を「生命の営みに寄り添い、周辺環境に連鎖し、絡まりあいながら秩序を織りなす『からまりしろ』である」と捉え、自然や生き物が有する秩序と建築を近づけることを目指しており、『太田市美術館・図書館』は、『からまりしろ』を1つの形として表現した環境共生建築である。今回の見学会では、太田市駅前広場にあり、美術館と図書館の複合施設である環境共生建築を見学した。

(実施日時：2023年8月22日 参加者数25名)

あり、ものづくりを通じて培われてきた市民ひとりひとりの英知は、今も太田市の活力の源泉となっている。

一方で太田市は、中心市街地の衰退、人口減少と高齢化への対応など、様々な都市課題を抱えており、今後太田市が「人と自然にやさしい、笑顔で暮らせるまち」であり続けるためには、「まちづくり」に対する市民の参画と協働をこれまで以上に推進していくことが重要になると考えていた。

そこで2013年5月に中心市街地の賑わいと創出と旧北口駅前広場の有効活用を目的に計画案を作成。同年11月に市民の意見を施設の基本計画に取り入れられるよう「太田駅北口の賑わい創出について」の市民アンケート調査を行った。

アンケート調査の結果を踏まえ、2014年1月に「(仮称)太田駅北口駅前文化交流施設整備基本方針」を策定、3月に設計者選定プロポーザルを実施した。設計者選定プロポーザルにおいて、建築及び美術の専門家、市民を交えた選定委員会(5名：建築2名、美術1名、市民1名、行政1名)を設置した。

180件の応募と116件の提案の中から、最優秀として選ばれたのが平田晃久建築設計事務所であり、設計を依頼することとなった。

■基本設計と市民ワークショップ

基本設計にあたっては、市民ワークショップを開催すると共に、美術、図書の専門家を交えた整備検討委員会5名(美術1名、図書1名、行政3名)を設置し、検討を進めた。基本設計のための市民参加型ワークショップは、設計者選定プロポーザルの提案条件「設計にあたり、市民参加のワークショップ(WS)やフィールドワークを行うこと。」として入っていた事項である。

基本設計のための「設計ワークショップ」は、設計者側が主体となる方式で、ファシリテーターの他、前述の「整備検討委員会」も加わり実施された。ワークショップは5回実施され、平均して30名程度の市民に参加いただいた。ワークショップの進め方として、設計者が提示した複数案について市民が意見を述べ、その意見を元に設計者と行政が最終案を決定した。

反省点としては、行政主導で進めなかったことで、参加者に対して責任の所在を明確にすることが弱くなってしまったことが挙げられる。

■基本コンセプト

太田市美術館・図書館は、太田駅前の人の流れを活性化し、街と自然が入り混じる、生きたサイクルを生み出す複合施設である。駅から人の流れを建物の中まで引き込むために、様々な方向に出入口をつくり、通り抜けできる街の一角のような施設として設計されている。

企画展示室等に穏やかなスロープが巻き付いた構成とすることで、建物上部まで連続した道のような空間とし、緩やかな起伏のある街の外部空間のような雰囲気が醸し出されている。スロープに沿って箱の内側と外側には様々な場が展開し、子どもからお年寄りまで誰もが自分の居心地のよい場所を見つけ、それぞれの時間を過ごすことができる。頑丈なコンクリートでできた箱の屋上部分は土を入れて緑化している。

外部からはガラス越しに、建物内部の人の動きやアートが見え、中に入りたくなる雰囲気をづくり、美術館や図書館からお互いが見えるようにすることで人の流れを誘発する。美術館の企画展やイベントに関連して、図書館の一角にそれと連動した企画図書コーナーを設け、美術館と図書館との連携を意識し、お互いの活動がまじりあうような関係を目指している。

■管理運営

○運営体制

太田市直営または指定管理者制度で検討した結果、美術事業には長期的な視点に立つ必要があるため、継続性を考慮し、さらに予算執行の透明性などを総合的に判断した結果、市直営とした。業務の一部は、一般財団法人太田市文化スポーツ振興財団へ委託している。

○総合ディレクション

美術館事業、図書館事業、美術館・図書館共同事業など極



見学会は8月の猛暑の中、午後からの見学会となった。東武線の太田駅前北口広場に建つ太田市美術館・図書館は、平日にも関わらず、社会人、親子連れ、学生等、多くの利用者が賑わっていた。

本見学会の参加者は、まず1階のイベントスペースに集まり、施設の構成について太田市美術館・図書館職員である今泉知子氏よりご紹介いただいた後、3班に分かれて館内をグループで見学。館内の見学を経た後に、3階の視聴覚ホールにて質疑応答を含めた詳しい説明をいただいた。

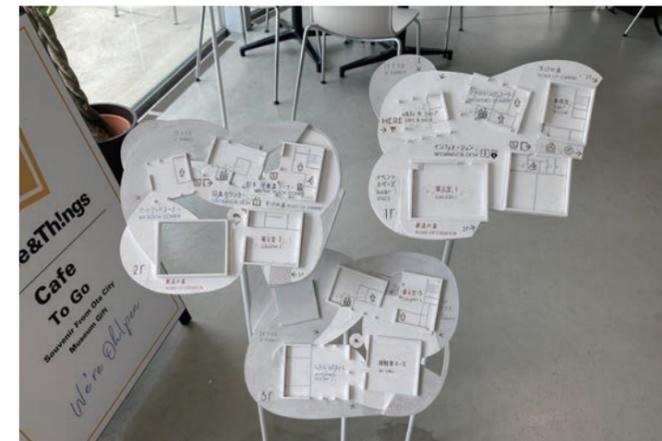


3階視聴覚ホールでの詳細説明の様子

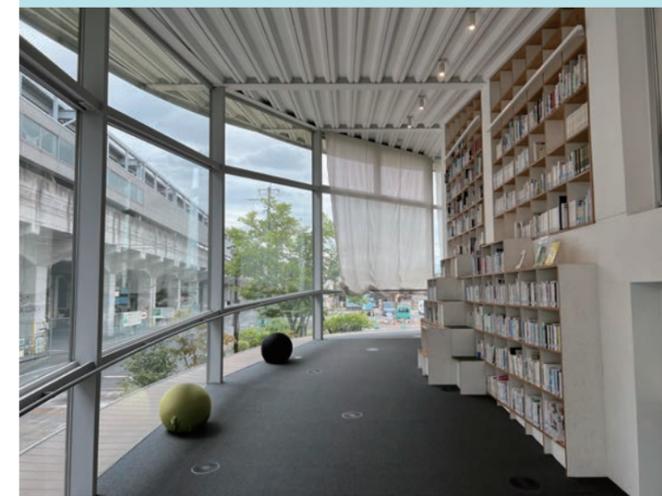
■事業概要

太田市美術館・図書館(群馬県太田市)は、まちに創造をもたらす、知と感性のプラットフォームとして「創造的太田人(そうぞうてきおたびと)」を基本理念に、太田で育まれてきたものづくりの英知を継承しながら、市民によるこれからのまちづくりの拠点となることを目指した公共複合施設として2017年4月にグランドオープンした。

近代以降、太田市はものづくりを中心に発展してきたまちで



入口横に設置された立体的な案内版



1階のブラウジングコーナーから2階へ続く「学びの道」



1階のブラウジングコーナー

2階の絵本・児童書コーナー



絵本・児童書コーナーには、60カ国以上、2万冊以上の絵本・児童書が

めて多岐に渡るプロジェクトを着実に推進するため、専門的知識を有する事業者（スパイラル/（株）ワコールアートセンター）に、運営の指導や協力を求めるディレクション業務委託を、平成28年度から29年度の2年間に渡り実施した。

○運営に係る特徴や工夫

- ・設計段階からサイン計画を実施し、館内の案内表記を統一させることにより視認性及びデザイン性に優れたものとなった。ただ、開館後に館内の平面図や洗面所など施設に関する案内表記が一部分かりづらいという利用者からの指摘があり、見直しと改良を行った。
- ・図書資料にICタグを貼付、自動貸出機を導入することで貸出手続きの簡素化、カウンター業務の効率化を図っている。出入口にゲートを設置し、不正持ち出しの抑制に努めている。初めて利用される方には職員が対応するなど、利用者目線に立った運営を目指している。
- ・市民ワークショップやまちじゅう図書館の展開により、市民参加とまちに広がる仕掛けづくりを行っている。
- ・美術館の有料ゾーンと図書館の無料ゾーンが曖昧となる3階部分では、展示室前で半券を確認することで対応している。

○利用者数及び年齢層

来館者数はオープンした平成29年度に30万3468人、平成30年度は29万8911人、令和5年度は18万4096人となっている。年齢層は、平日は未就学児を連れた親子連れが多く、学生や高齢者まで幅広い年齢層に利用していただいている。休日はその他親子連れや、市外・県外から若い世代の来館者が増えている。

■図書館運営

○駅前の活性化を目指す文化交流施設

市内には中央図書館を含め既存の図書館が4館存在している。これらの図書館と比較し、より敷居の低いサテライト的な位置づけとすることで、日常的に図書館を利用していない層を取り込み、駅前の活性化を目指す交流施設としての機能を強化するため、中央館としての構想は持っていない。

○機能の住み分け

駅前の活性化を目指す交流施設として、一般的な公共図書館とは大きく異なる形での運用を行っている。

絵本を中心とした児童書、美術、アート分野の充実、雑誌コーナーやカフェの設置など駅前に気軽に立ち寄れる場所として、公共図書館の概念にとらわれず人が集う仕組みに重点を置いている。他の図書館との運用面での違いを持たせているため、相互貸借及び図書館利用カードの統一は行っていない。

○雑誌スポンサー制度

本館が必要とする雑誌を提供（年間購読料を負担）していただくと、その雑誌にスポンサー名称を掲載できる制度を採用している。市民も館運営に参加できるという意識を高めるとともに、図書資料購入の財源確保にもなり、ひいては図書館サービスの向上にもつながる取り組みである。

○まちじゅう図書館

にぎわいの創出を目指し、太田市美術館・図書館を拠点としてまちなかへの回遊性、活性化を図るため、新たなコミュニケーションの場として始めた事業。令和5年1月末時点で、参加館は36館。飲食店や喫茶店、金融機関、小売業の方々に参加いただいている。

■環境共生住宅的技術要素

- I 省エネルギー : タスク・アンビエント照明の採用、日照時間の長さを活かす自然採光計画
- III 地域適合・環境親和 : 建物緑化、気流解析を活かし開口部の適切な配置を行い、テラスと屋内の最適な風環境を体現
- IV 健康快適・安全安心 : エントランスから上階に行く動線をエレベーターとスロープで計画し、段差なく様々な部屋へ行き来が可能



1.2階から3階へ続く螺旋階段から、1階の総合カウンターを望む。2.1階のカフェ&ショップ。3.2階のアートブックコーナー。4.3階へ続く学びの道。緩やかなスロープに合わせて椅子の脚先が半球形をしている。5.カーミラーを使った館内の案内板。6.絵本・児童書コーナーに併設するコピー機や作業台は自由に利用できる。7.屋上から北口広場を望む。8.3階に面した屋外テラス。白いキューブ状のストूलは夜間に発光する。

■基本データ

- 用途 : 公共施設
- 敷地面積 : 4641.33㎡
- 建築面積 : 1496.87㎡
- 延床面積 : 3152.85㎡ (美術館部分 537㎡ / 図書館部分 843㎡、共有部分 1772.85㎡)
- 高さ(最高) : 15.3 m
- 竣工年月日 : 2016年12月28日
- 構造・階数 : 鉄骨コンクリート造及び鉄骨造
- 階数 : 地上3階、地下1階
- 建築主 : 太田市
- 設計 : 株式会社 平田晃久建築設計事務所
- 施工 : 石川建設 株式会社
- 主な施設 : ●美術館 (展示室1~3、収蔵庫)
●図書館 (ブラウジングコーナー、絵本・児童書コーナー、アートブックコーナー、レファレンスルーム)
●視聴覚ホール ●イベントスペース
●カフェ&ショップ